

U15b どのように宇宙の素粒子はできたか。ビッグバンの以前、どうして電磁気は次々1束の電磁気を増加させ1束の電磁気のエネルギーを大きくしたか。

小堀しづ

電磁気は存在する場のエネルギーに自分のエネルギーを合わせ存在する。それは、高エネルギーの場で、電磁気は集まり、自分のエネルギーを大きくするという事です。これと同じ原理により、ビッグバンの以前の宇宙に於いて、電磁気は次々集まり自分のエネルギーを大きくした。これが電子のラブと陽子のラブの生成原理です。ビッグバンの以前、どうして電磁気は次々1束の電磁気を増加させ1束の電磁気のエネルギーを大きくしたか。ブラックホールの場合は、電子のラブの公転軌道は、 $1.434 \times 10^{-16} \text{m}$ です。ブラックホールの場のAは、 7.378×10^5 です。(特願 2007-133476) マイナスの宇宙の場で、放出された電磁気1個のエネルギーは $3.769 \times 10^{-21} \text{J}$ です。(特願 2015-216356) ブラックホールの場で、電子のラブが1秒間に作る磁気的光子のエネルギー(引力)は、 $7.815 \times 10^{-26} \text{Jm} \div \text{公転軌道} = 7.815 \times 10^{-26} \text{Jm} \div (1.434 \times 10^{-16} \text{m}) = 5.450 \times 10^{-10} \text{J}$ 、です。ビッグバンの以前のマイナスの宇宙の場は電磁気の場で、地表の 3×10^8 倍のエネルギーの場ですから、放出された電磁気1個のエネルギーは、 $3 \times 10^8 \times 3.769 \times 10^{-21} \text{J} = 1.131 \times 10^{-12} \text{J}$ 、です。このエネルギーはブラックホールの場の引力に近いので、電磁気は次々1束の電磁気を増加させ1束の電磁気のエネルギーを大きくした。この事により、電子のラブや陽子のラブはできた。